

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成 28 年度)

年

東京都福祉サービス評価推進機構

公益財団法人東京都福祉保健財団理事長殿

〒 171-0014

所在地 豊島区池袋 2-23-23 白鳥ハイツ 102 号

評価機関名 特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

認証評価機関番号

機構 07

177

電話番号

03-6906-5231

代表者氏名

理事長 島田久平

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・ 評価者養成講習修了者 番号	評価者氏名		担当分野	修了考番号
	①	ふ。田健。	経営	H1001001
	②	廣田伊志子	福祉	H0801075
	③	都筑芳江	福祉	H1102005
	④	島田久平	福祉、経営	H0702042
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害者支援施設			
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 施設入所支援			
評価対象事業所名称	友愛学園成人郎		指定番号	
事業所連絡先	- T	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木 2 丁目 130 番 2 号		
	・	0428-74-4192		
事業所代表者氏名	施設長山本以文			
契約日	2016 年 6 月 30 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016 年 9 月 5 日			
利用者調査結果報告日	2016 年 11 月 15 日			
自己評価の調査票配付日	2016 年 8 月 23 日			
自己評価結果報告日	2016 年 11 月 15 日			
訪問調査日	2016 年 11 月 21 日			
評価合議日	2017 年 1 月 5 日			
コメント(利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置)	職員説明会では評価制度の趣旨や評価方法について丁寧に説明した。利用者調査にあたっては施設と事前に十分協議し、利用者の意向がより把握できるよう工夫した。聞き取り調査の前に利用者の活動状況を見学し、調査員 4 人が 10 人の利用者に対し 1 対 1 の聞き取り調査を行った。訪問調査は評価者 4 人で行い、施設長、副施設長と面接し、実施状況について説明を受け意見交換を			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- { (追加欄が定める部分を公表することに同意します。
C)』添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
C)3] 添の理由書により、公表には同意しません。

年

日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述(関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <p>1)利用者の一人一人をかけがえのない存在として大切にします。2)利用者の人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。3)障害のある人たちに対するいかなる差別・虐待・人権侵害を許さず人としての権利を擁護します。4)障害のある人たちが社会活動に参画し市民社会の一員として生活できるよう支援します。5)利用者が希望する自立の実現に向けた支援をします。</p>
2	<p>期待する職員像（関連カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・利用者の願いや思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・利用者の自己実現、願いや思いに応えるべく、日々切磋琢磨、自己研鑽することを期待する。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の創作活動を活かし、作品展示販売や地域住民を対象に陶芸、和紙の制作、草木染めの体験教室の実施など地域貢献活動を展開している
	内容	友愛学園成人部は、各種イベントに参加するなど利用者の創作活動を活かした地域貢献活動を積極的に展開している。市主催の「おーちゃんフェスタ」では、陶器や和紙、藍染めの作品展示販売と体験ワークショップを行っており、子供から大人までが参加し楽しんでいる。また、まちづくり活性化事業である商店街空き店舗での作品展示販売に参加したり、休日に工房を市民に開放し、陶芸や和紙づくり、草木染めの体験教室を開催している。さらに、和紙原料となる桑の皮を収穫する「桑狩り」には、地域住民や陶芸家等がボランティアとして大勢が参加している。
2	タイトル	利用者の障害特性や要望、重度・高齢化に合わせ芸術・創作活動と個別リハビリ等 20 種類の活動プログラム提供し、作品展等も開催している
	内容	20 種類のプログラムは芸術・創作活動と個別リハビリの二つのグループに分け、利用者の障害特性や個別ニーズに応じて提供している。一方で利用者の意思を尊重し、グループにとられない提供に配慮した支援も行っている。重度・高齢化に向けて短時間や心身に負担が少ない活動も提供している。社会参加に向けて作品展等に力をいれ、都心で単独の作品展、公立美術館等で有名デザイナーとのファッションショー等を展開している。施設見学時に施設内外に様々な独創的な作品が展示され、工房ではいきいきと創作活動を行う利用者の姿を見ることができた。
3	タイトル	障害特性や介護度等を考慮したユニットケアで日常生活の維持・向上に取り組み、浴室は 7 か所あり、ほぼ毎日入浴支援を行っている
	内容	障害特性や介護度等を考慮した 9 ユニットで約 7 割が個室である。ユニット支援計画(目標・課題、支援方法・健康・安全面、余暇、環境、日課、家族関係等)を作成し、利用者の日常生活の維持と向上に取り組んでいる。例えば、医務と連携し介護技術・アドバイスを受けながら支援、土日の外出(ドライブ・散歩・昼食外出等)、落ち着ける空間の確保等である。食事支援も行っている。最重度者が多い中入浴は週 6~7 日、浴室は 7 か所(個室・共同浴)、リフト浴は男女各 1 か所でフル稼働、ストレッチャー、介助浴も実施し、重度・高齢化に対応している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	安定した職員配置に向けて、各種大学への働きかけによる人材確保やリーダーの育成など次世代を見据えた取り組みが期待される
	内容	友愛学園成人部では、人材確保が難しい状況の中で昨年度は、社協の合同採用試験に参加したり、「就職情報ナビ」を活用し業務に見合った若い職員を採用することができた。一方で、職員配置については、ベテラン職員の定年退職が続く状況にあり、継続した人材確保と空洞化してきている中堅層の育成が課題となっている。このため成人部では、各種大学への働きかけや地方に出向いてのさらなる人材確保や OJT の強化などによるリーダーの育成を検討しており、次世代を見据えた取り組みが期待される。
2	タイトル	職員の資質、支援の質を向上させる人材育成に力を入れているが職員自らが自覚し学んでいく個人別育成計画の充実への取り組みに期待したい
	内容	友愛学園成人部では、職員一人ひとりの資質、支援の質を向上させ組織力を高める人材育成に力を入れており、キャリアに応じた研修項目の設定や資格取得を奨励している。研修は、経験や知識及び施設長面談による意見交換で職員が目指すことや学びたいことを把握し研修計画を作成し実施している。また、人事考課制度による職員個々の業務上の課題や目標を記載した「フレッシュアップシート」に基づく育成を図っているが、職員自らが課題を自覚し学んでいく「個人別育成計画」作成の充実に向けて、今後の取り組みに期待したい。
3	タイトル	毎月委託業者を含めた給食会議を開催し食事内容の向上に努めているが、食事時間が楽しいひとときになるために更なる工夫に期待したい
	内容	食事はユニット内と介護が必要な利用者は食堂で提供している。毎月の給食会議では、委託業者、副施設長、栄養士等により、味、利用者の残食状況、意向等を基に食事内容の更なる向上に努めている。一方、今回の評価における職員アンケートでは、ヘルシー食を評価する一方、味付け・量・質・食材に対する改善、利用者の嗜好や食事の楽しさを大切にしてほしい等複数の意見があった。選択食は行食事のみで、嗜好調査は行っていない。食事は生活の中で大きな楽しみであり、重度・高齢化の中で食事形態に配慮しつつ楽しさに向けても更なる工夫に期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある
タイトル①	専門的・先進的な取り組みを発揮し地域や他の事業所と連携した活動を展開している	
内容①	<p>施設が培ってきた専門的・先進的な取り組みを発揮し地域や他の事業所と連携した活動を展開している。市主催の「おーちゃんフェスタ」では、陶器・和紙などの作品展示販売と「体験ワークショップ」など地域の行事に積極的に参加し交流を深めている。また、自立支援協議会に職員を派遣したり、施設長は社会福祉協議会の理事を担うなど社会貢献事業の推進に参画している。西多摩地区の障害者施設職員を対象とした研修を開催したり、今年度から都の人材育成事業を受託し、障害の重度化への対応を課題とした研修を4施設から4名の受け入れを開始した。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-2-1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる
タイトル②	防犯カメラによる常時監視や駐車場に照明を設置し不審者侵入対策に万全を期している	
内容②	<p>友愛学園成人部では、「利用者が安全、安心して暮らせるように支援する」ことを最重視し「リスクマネジメント委員会」を設置し様々な取り組みを行っている。各種リスク対応マニュアルを整備し迅速・的確に対応することやBCP(事業継続計画)による備蓄品のチェックや職員の防災意識の高揚、防災機器操作の習熟など不測の事態に備えている。また、利用者が外出するときはGPS機能付携帯を持たせており、相模原の事件を受けて、防犯カメラ4台を設置しモニターで常時監視することや駐車場に照明を設置するなど不審者侵入対策に万全を期している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	マニュアルの精査を実施して整備をすすめ、法人全体が標準化を目指している	
内容③	<p>マニュアル一覧には支援マニュアルや虐待防止マニュアル、行方不明緊急対応マニュアルなど多岐にわたる30近い様々なマニュアルがあり、施設の実情に即して精査し整備を進めている。友愛学園支援マニュアルはサービスの質の向上を図るため検討を重ねて策定し、支援の基本的な考え方と実際場面の支援方法を①個人の尊重②自己決定・自己選択③プライバシー権利の項目毎に具体的に一つ一つ対応し記述されている。法人の新任職員研修では支援マニュアルをテキストにして、支援の基本的な考え方や支援の実際等を伝え、業務の標準化を目指している。</p>	